

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年11月19日

【評価実施概要】

事業所番号	2570100863
法人名	医療法人社団 洛和会
事業所名	洛和グループホーム坂本
所在地	滋賀県大津市下阪本6丁目19-1 (電話) 077-578-6411

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	大阪市北区天満橋2丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年10月3日	評価確定日	平成19年12月28日

【情報提供票より】(2007年 8月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 4月 21日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 5 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 7.15 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,700 円		

(4) 利用者の概要(8月4日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和会音羽病院 阪本医院 高橋歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療、介護、健康保育、教育研究の総合ネットワークを持つ洛和ヘルスケアシステムの中のグループホームの一つで、比叡山の麓、琵琶湖からも程近いところに位置し、クリニックの2階部分を改装して造られたホームです。法人による研修や医療の連携を基礎に、ホーム独自でも入居者の笑顔を大切に、暮らしを支えるための支援を行っています。入居者、家族とのコミュニケーションを充分にとれるよう、ホームのことや入居者のことを伝えることに力を入れています。そして、家族からの希望や意向を把握しやすいように、アンケートや直接話を聞く機会を持っています。また、スタッフ全員が協力し、意見を出し合いながらより良いケアに取り組まれているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かし、救命講習会を全員の職員が受講するなど具体的に行動に移しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価はスタッフと担当を決め記入し、非常勤の職員には白紙の評価用紙を配り記入し、それらを合わせ評価を完成させました。自己評価については、今後の課題として取組みに活かしていく予定です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は職員、家族、民生委員、自治会長、社会福祉協議会からの出席があり、情報交換や意見交換が行われています。現在、災害時に地域からの協力体制について話し合われており、ホームの情報提供を行い対応が検討されています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月のホームでの入居者の様子や変化等について手紙を送ったり、季節の行事ごとに便りを発行し、ホーム全体の様子も伝えています。また、面会時や電話で直接話をし、その時々を報告を行っています。様々な方法でホームのことを伝え、信頼関係を築き、要望や希望を直接聞くことができています。また、半年に一度家族アンケートを行っています。家族からの意見は、その都度、対応が検討され、必要に応じてケアプランに反映させています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入り、地域の運動会や夏祭りに参加しています。今年はホームで夏祭りを開催し、地域の住人も多数参加があり、交流することができています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、ホーム独自で「地域の中で笑顔を持って暮らしていきたい」という理念を掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念である地域で暮らすことや、笑顔を大切にしてケアをすることを意識し、日々実践されています。しかし、まだ文章にしたものがないため、理念として全ての職員への周知が不十分です。	○	ホーム内外の人が出入りすることが多い多目的ホールや、ホームの玄関などに、独自で作られた理念を掲示し、誰もが周知できるような取組みを期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、地域の運動会や夏祭りに参加しています。今年はホームで夏祭りを開催し、地域の住人も多数参加があり、交流することができています。	○	ホームの中に広い多目的ホールがあり、会議や行事、ボランティア活動等ができる場所があり、地域の住人に開放したり、交流の場としての活用を広げていきたいと考えています。是非実現されるような取組みを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価はスタッフと担当を決め記入し、非常勤の職員には白紙の評価用紙を配り記入し、それらを合わせ評価を完成させました。自己評価については、今後の課題として取組みに活かしていきたいと考えられています。前回の外部評価を活かし、救命講習会を全員の職員が受講するなど具体的に行動に移しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は職員、家族の他、民生委員、自治会長、社会福祉協議会からの出席があり、情報交換や意見交換が行われています。現在、災害時に地域からの協力体制について話し合われており、ホームの情報提供を行い対応が検討されています。		

洛和グループホーム坂本

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当も時々参加している地域ケア会議に出席し、意見交換をしています。	○	運営推進会議の議事録を直接持っていったりし、ホームの状況を報告したり、ボランティアや行事などの情報を聞いたりしながら、ホームでのサービスの向上につながる情報交換から取り組まれてはいかがでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、請求書や小口預かりの出納内容と一緒にホームでの様子や変化等について手紙を書き、郵送しています。また、季節の行事ごとに便りを発行し、ホーム全体の様子も伝えています。面会時や電話で直接話をし、その時々での報告も行っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で、コミュニケーションをとりながら、信頼関係を築き、要望や希望を直接聞くことができます。また、半年に一度家族アンケートを行っています。家族からの意見は、その都度、対応が検討され、必要に応じてケアプランに反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士、また管理者と職員の関係が良く保たれ、離職を希望する職員は少なく、異動についても良く話し合われ最小限となるよう配慮しています。突然の異動で入居者が混乱しないよう、事前に知らせています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画にそった研修、及び適時に外部研修を受けることができる体制が整えられています。非常勤の職員も少しずつ外部研修を受けることができるよう勤務の配慮等を行っています。また、研修の資料を全員が閲覧し共有が図られています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議やグループホーム協議会、同じ法人内のグループホームの会議などに出席し、情報の交換や相談をすることで、ホームのサービスの質の向上につなげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族、本人と面接を行い、アセスメントをしてその方のことを職員が知ったうえでサービスを開始しています。職員は、入居後少しずつ馴染んでいるかを確認しながらケアを行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者個々の生活や経験大切に、教えてもらいながら共に暮らしていることを意識しています。日常では、食事作り草花の世話、季節の行事などの習慣を教えもらう機会が多くあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、以前の暮らしからの情報を得て、希望や意向を聞いています。また、意思の表現の困難な方には、家族からの情報や表情、仕草から本人の思いをくみ取り把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を立てるときや見直すときには、家族の意向を聞き、スタッフ全員に個人カンファレンス表を記入してもらい、それらを基に話し合って立案しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常3ヶ月ごとに見直しを行っています。介護保険の区分変更時や状況の変化のあった時には、その都度見直しを行いその時にあった介護計画を立てています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療機関との連携が図れ、入院をした際にも早期退院に向けて働きかける体制があります。また、以前から利用していた美容院に行く支援など、個々の生活、希望に合わせた支援を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談し、かかりつけ医を決めています。提携のクリニックは併設しており、相談しやすく対応が早いので、安心感があります。訪問歯科及び訪問看護は週に1回の往診があります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人として「看取りの指針」を打ち出し、入居時に説明し同意を得ています。終末期の段階をホームで迎えた入居者はまだいませんが、チームで連携できる体制は整えられています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物は事務所で適切に管理されています。ケアにおいては、言葉遣いに注意をしています。申し送りや会議などで振り返ったり再確認をしながら、ケアを行っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで、入居者個々のペースを守り生活できるように支援しています。以前は、入居者の状況も考慮したうえで夜間入浴を行っていました。		

洛和グループホーム坂本

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前にメニューを作るのではなく、冷蔵庫にある食材と入居者の希望を聞き食事の献立を作っています。調理のできる入居者と一緒に食事作りを楽しんでいます。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や曜日は決まっておらず、毎日でも夜間でも入ることが可能です。浴室が広く、希望があれば2人で入ることも出来ます。入浴が嫌いな方には、足浴したり家族に協力してもらっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植物の世話や手芸、洋裁、お化粧品など個々の生活歴と能力に合わせ、その方にあった楽しみごとがもてるように支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や日々の散歩、ドライブ、理美容など、日常の中で外に行けるように支援しています		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の1階部分がクリニックになっており、2階にホームがあり、2階には扉がなくパーテーションを置いています。パーテーションに鈴をつけ、人の出入りは職員が見守りしながら対応しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に1回消防署との協力でから来てもらい消防訓練を行っています。また、ホーム独自でも2ヶ月に1度避難訓練を行っています		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検食表を法人の栄養士に見てもらいアドバイスをもらうシステムがあり、チェックを受けています。食事量や必要な方の水分量は記録し、個々の入居者について把握しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には安らげる油絵や観葉植物が飾られていたり、ベンチが多く置かれています。また、多目的ホールも開放され、景色を見たり一人で過ごすことができ、開放感が感じられます。リビングには入居者が自然に集まり、穏やかに居心地よさそうに過ごされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人と家族に相談し、入居前から使っていた家具や写真、趣味の品などが置いてあります。また、基本的には和室ですが、ベッドを置いたりフロアカーペットを敷き、入居者の能力や生活に合わせた配置を考慮しています。		